

シンポジウム 1

「メタボリックシンドロームと心理・社会的側面」

座長：名古屋大学大学院 精神医学

尾崎 紀夫

関西医科大学健康科学センター

木村 穰

基調講演

「メタボリックシンドロームと心理・社会的側面」について

木村 穰

関西医科大学健康科学センター

メタボリックシンドロームは、現在の我が国の健康・疾患管理に大きな比重を占め、その重要性は医学のみならず、社会・経済的にみても大きく認識されている。このメタボリックシンドロームの予防、治療は、肥満、内臓脂肪のコントロールが基本であり、食事、運動という生活習慣のコントロールが基本であることも周知の事実である。しかし、薬物療法を中心とした現代医療の中では、この生活習慣の改善、コントロールが最も介入困難な対象と考えられている。

この生活習慣のコントロールにおいて表面的なコントロールを行うと、一時的には改善したりよくなっても、いわゆるリバウンドを認めたり、また介入困難となり施行側の自己効力感も下がってしまい、結局体重コントロールについては介入放置に至ってしまうことも多い。ここでの問題は、患者本人のみならず、治療側までがその生活習慣、肥満に関与する内面的な原因としてのストレスや性格特性、社会的側面を考えることなく、表面的な体重の変化や行動目標の結果にこだわってしまうところにある。したがって、肥満や生活習慣に関与する内面的な問題としてストレスをとらえていくと大きな効果が得られ、かつリバウンドの少ない結果が得られることになる。

本シンポジウムでは、このメタボリックシンドロームにおける肥満、生活習慣におよぼすストレスの評価、介入方法等につき、心身医学的な面からフォーカスをあて、実際の臨床での応用に役立てる方法等につき検討する予定である。